

アカデミー通信

発行者: アカデミー学院
責任者: 舟田 謙二
254-0903 平塚市河内 520-1
TEL 31-6831 FAX 35-1690
URL <http://www.academygakuin.com>
HOTLINE: jfunada@gmail.com

今からできる得点アップ裏ワザ & 合格十か条

中3生、そして公立中高一貫校受験者は、いよいよ入試本番です。不安もあるでしょうが、本番までの期間を過ごす上での心構えを伝授します。ぜひ実践してください。

1. 過去問や予想問題を数多く解き、問題のパターンや解答のパターンを覚える。同じ問題を何度も解き、確実にできることを増やしましょう。
2. 自分の苦手科目・分野・弱点を把握し、基礎を徹底的に押さえる。基礎問題を解いたら予想問題などで類題を解く。入試ではワークのような問題は出ないので、あくまで入試形式の問題を解いて確認するように。
3. 塾のワークや模試の模範解答の解説をじっくり読んで解答のコツを身につける。記述問題は模範解答がどのように書かれているかを把握し、まねて書いてみるのがとても効果的。
4. 自分でやってみてよく分からないところは、塾の補習を活用して、先生に納得いくまで教えてもらう。一人ひとりに合ったプリントを出すこともできます。先生をどんどん活用してください。
5. 時間を区切って勉強する。試験時間に区切ると時間の感覚がつかめてくるのでおすすめ。疲れたら気分転換も大事ですが、寝る時以外は完全OFFにしない。試験が頭から離れると落ちる、くらくらするのもあくまで入試に照準を合わせていよう。
6. トイレなど、空き時間を利用して、暗記モノをやる。暗記したことは翌日必ずもう一度確認すること。
7. 否定的なことを考えず、イメージトレーニングで、ものごとを肯定的にとらえる。「ダメだ」という言葉は禁句。出した言葉

- は潜在意識に届き、自信をなくさせようとしてくる。これを逆手にとって、「絶対できる」「本番で学んだことを発揮するのが楽しみだ」と言葉に出して、いれは本番にその通りになる。
 8. 早寝・早起きに切り替え、本番の試験時間に合わせる。
 9. マスク着用、うがい、手洗いを励行し、栄養をとって風邪やインフルエンザから体を守る。
 10. 試験前日は胃にもたれないよう軽い食事をする。ゲンをかきでカツ丼などを食べて体調を崩さないように。
 11. 試験前夜まで来たら、もう遅くはない。遅くまで起きて勉強せず、早く寝る。
- 続いて試験直前に確認する、**合格の十か条**です。これを今から予想問題を解くときに、また授業で実践して練習しておいてください。
1. 試験開始前には、余計なこととは考えず、目の前の試験に集中する。自分がやってきたことを考え、完璧を狙いすぎないで、いつも通りの力を出せるようリラックスする。
 2. 解けないと思っただけか、かかっているのか、解けると思っただけか、意外なところでヒントが見つかるもの。
 3. 問題をよく読む。読んで出題の意図をつかむ。
 4. 難しいのは自分だけじゃない。他の受験生もみんな同じ。
 5. 1点でも落とさない。英単語の形、理科の単位、数学の計算などで生まれる1点のミスが合否を分ける。
 6. すぐに解けなくても決して慌てない。冷静に見れば解く糸口が見えてくる。
 7. 基本的な問題をしっかりと解いて確実に得点する。

8. 1秒も無駄にしない。時間のある限り考え、見直すこと。最後までベストを尽くす。
 9. やってみたい意外と時間がかりそうな問題は、思い切って飛ばして次の問題へ進む。飛ばすときは解答欄をずらして書かないよう注意。
 10. 記述式問題は白紙にしない。何も書かなければ0点だが、何か書けば部分点がもらえる可能性がある。最後までねばって高得点をもぎ取る。時間が足りないようなら他の問題を解こう。
- 今から、あるいは試験前夜になつて不安を感じることもあるかもしれませんが、慌てず、緊張したところ、得点は上がりません。それならば、今できることをやるのみです。冷静に、一歩ずつ、目の前のことやついでにいきましょう。
- テレビやケータイは極力見ない。決意があるとおおいいです。息抜きも必要ですが、今、最も力を注ぎ、高い結果を求め、今後の生活を左右するような価値あることは、勉強の他ありません。友達とも連絡を取りすぎないようにしましょう。塾に来ればケータイに触れない環境がありますし、友達にも「塾だから返信ができない」とあらかじめ言っておくことをお勧めします。
- また試験当日に完璧なコンディションを求めたり、120%の力を出そうとしても、自分にプレッシャーをかけるだけです。前に眠れなくても、目をつむってあまり考えないようにすれば睡眠と同じくらい脳が休まります。試験中の集中力を高めるために当日の朝、コーヒーなどでカフェインを摂るのもいいですが、飲みすぎは禁物。あくまでいつもと同じことをするのが原則で、今までにやってきたことを出し切るだけです。「ここまで頑張ってきた。あとは力を出し切つてやるだけだ」と開き直るのが一番です。
- 皆さんの健闘を祈ります。

みんな天才!

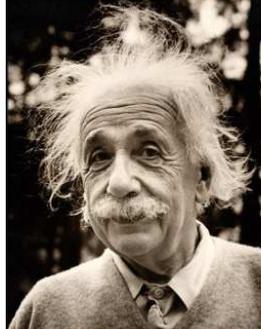
中3生の県立高校入試日は2月14日。1月1日から数えるにあとたったの1か月半。と、ところがです。なんと、アカデミー生には特別措置として3か月の期間が与えられているのです。なんとという特権でしょう。

その秘密は、入試日直前までに英語・数学と国語・理科・社会がそれぞれ週2日ずつ、各教科11コマ学習できるのです。これは通常授業の約3か月分に当たります。この集団授業のほかに、一人ひとりのニーズに合わせて必要な教科の個別授業や特色検査対策コースを選択履修することもできます。

し、しかも、です。入試前日まで、週日・週末すべて空き教室がある時は、補習もしくは自習を提供しているのです。この補習・自習の時間まで加えると4か月、あるいはそれ以上になるかもしれません。

今年も何人かの中3生が週6日、場合によっては7日毎日塾に来て勉強に励んでいます。学校から直行して、夜10時まで自分の勉強部屋代わりに活用してもオッケイです。「家にいる時間よりもアカデミーにいる時間の方が長い」「アカデミーの授業が毎日あるなら毎日でも来る」と中3生は毎年言っています。

ここで油断してはもろろんだめですが、焦る必要はありません。この時期、多くの受験生が陥る一番のワナは、「焦り」です。焦って勉強が手につかなくなるのです。でも、アカデミーでは焦る必要なく、後悔することなく勉強することが可能です。そしてグッドニュースは、試験前の1か月で約3割の人が50点以上伸ばしているということです。最後の最後まであきらめずに頑張りましょう!



Everybody is a genius. But if you judge a fish by its ability to climb a tree, it will live its whole life believing that it is stupid.

-Albert Einstein

みんな天才!

右の写真の人はみんな知っていますよね。そう、20世紀最大の天才科学者とされたアルベルト・アインシュタイン博士です。

この人がおもしろいことを言っています。右の英語を日本語に翻訳すると次のようになります。

「みんな天才です。でも、もし魚が木に登ることができたら、魚は自分をバカだと思ってしまうことになってしまう」

アインシュタインらしい、まさに賢い「天才」の定義です。私たちの多くが「天才」とは持つて生まれた、人並み外れた能力、頭の良さだと思っただけです。その観点から言うならば、アインシュタインは「凡才」どころか、天才とは正反対の「劣才」(れつさい)でした。

20世紀最大の物理学者、アインシュタインは今でいう発達障害でした。

5歳まで話すことができず、子どものころは学校の教師からバカだと言われていました。大学受験でも失敗していました。

のちに大物理学者になりましたが、大学時代、物理の成績は最低の1を取りました。大学卒業後は、大学の助手になれず、臨時の代理教員や家庭教師をして生活していました。

最初の「特殊相対性理論」という博士論文は大学に受理されませんでした。

周囲の人たちから能力が認められず、長い間奇人と思われていました。

アインシュタインは人から天才と呼ばれると、「私は天才ではありません。ただ、人より長くひとつのことにつき合っています。一匹の魚が一生懸命木に登ろうとしているが登れない。だから自分はバカだ、才能がない、などと思っただけならば、だれでも「いや、お前は魚だよ。魚は水の中を泳ぐのが仕事で、木に登るのは魚のすることではないんだよ」と魚に教えるようにします。

それでは人間の得意分野は何かというと、ひとつで言えば「考える」ことです。

人間は空を飛ぶことも、魚のように自由にずらうことも、何でも泳ぐことも、チーターのように速く走ることもできませんし、象のような力もなければ、キリンのように高いところに生えている葉っぱに手を届かせることもできません。

私たちはお互いの違いを認め、受け入れ、尊重し、助け合っているのです。その意味において私たちは「みんな天才」なのです。